

小林好日文書目録

整理番号	表題		作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記
I 講義ノート								
小林好	1	1	昭和九年度講義	小林好日	1934年	箱(ノート2冊入り)	1箱	21×16.5 国語の歴史的研究(昭和九年度)ノ形態論
小林好	1	1	(ノート)国語の歴史的研究(昭和九年度)	小林好日	1934年	冊子(紐綴ノート)	1冊 274頁	21×16.5 昭和九年度講義「国語の歴史的研究」のノート 第一章 言語の歴史的研究ノ第二章 言語史の通則ノ第三章 原始日本語の問題ノ第四章 国語と時代ノ第五章 奈良朝時代の言語
小林好	1	1	(ノート)[形態論]	小林好日	1935年	冊子(紐綴ノート)	1冊 260頁	21×16.5 講義ノート。「形態論」と書かれた頁が一番最初だが、破れており、最初の頁である可能性は低く、全体のタイトルではないと思われる。 第一章:その一 国語学の意義、その二 国語学の研究法ノ第二章:音声と文字ノ第三章:国語の音韻、音韻とその音声学の基礎、音節とアクセントノ第四章 語詞形態論
小林好	1	2	昭和十年度講義	小林好日	1935年か	箱(ノート2冊入り)	1箱	21×16.5 箱の表題に「昭和十年度講義 室町言語 日本文法(一)」とあるため、昭和十年度の講義ノートと思われる。但し2-1の冊子には昭和九年度とある。
小林好	1	2	(ノート)室町時代の言語 昭和九年度	小林好日	1935年か	冊子(紐綴ノート)	1冊 354頁	21×16.5 講義ノート。第一章 序説ノ第二章 国語の変遷と室町時代の言語ノ第三章 室町時代の言語資料ノ第四章 文字と音韻ノ第五章 語法 ノートの表題は昭和九年度とあるが、箱には「昭和十年度講義 室町言語 日本文法(一)」とある。
小林好	1	2	(ノート)[日本文法(一)]	小林好日	1935年か	冊子(紐綴ノート)	1冊 142頁	21×16.5 講義ノート。第一章 語と文ノ第二章 単語ノ第三章 品詞の類別ノ第四章 待遇法
小林好	1	3	昭和十一年度講義	小林好日	1936年	箱(ノート2冊入り)	1箱	25×16.3 箱には、「昭和十一年度講義 漢字と漢語 国語学概論(二)」とあるが、実際は、「漢字と漢語」のみ。箱表題の「国語学概論(二)」を欠く。
小林好	1	3	(ノート)国語に於ける漢字と漢語(昭和十一年度講義)	小林好日	1936年	冊子(紐綴ノート)	1冊 339頁	25×16.3 講義ノート。第一章 序説ノ第二章 漢字ノ第三章 漢語の性質ノ第四章 国語に於ける漢語ノ第五章 漢字の音
小林好	1	4	昭和十二年度講義	小林好日	1937年	箱(ノート2冊入り)	1箱	21×16.5
小林好	1	4	(ノート)日本音韻史 昭和十二年度	小林好日	1938年	冊子(紐綴ノート)	1冊 258頁	21×16.5 講義ノート。第一章 音声と音韻ノ第二章 音韻史研究の方法ノ第三章 現代語の音韻組織ノ第四章 室町時代の音韻とその後の変遷
小林好	1	4	(ノート)[日本文法(二)]	小林好日	1939年	冊子(紐綴ノート)	1冊 374頁	21×16.5 講義ノート(表紙なし) 第一章 文と其構成ノ第二章 単語と品詞ノ第三章 待遇法ノ第四章 体言ノ第五章 用言総説ノ第六章 用言の活用ノ第七章 用言の活用形ノ第八章 辞総説ノ第九章 助動詞ノ第十章 助詞
小林好	1	5	昭和十三年度講義 国語研究法ノ古語の研究	小林好日	1938年	冊子(ノートひも綴じ、箱入り)	1箱	21×16
小林好	1	5	(ノート)[国語研究法]	小林好日	1938年	冊子(紐綴ノート)	1冊 412頁	21×16 講義ノート。第二章 音韻の研究(20頁〜)ノ第三章 文法の研究(69頁〜)ノ第四章 語彙の研究(111頁〜)ノ第五章 文字の研究(134頁〜)ノ第六章 方言の研究(153頁〜)ノ途中原稿用紙の挟み込みあり ※「語彙の研究」の章番号は空欄になっている
小林好	1	5	(ノート)[古語の研究]	小林好日	1938年	冊子(紐綴ノート)	1冊 212頁	21×16 講義ノート。第二章 原始日本語(22頁〜)ノ古代の文献(46頁〜)ノ古代ニ於ケル時の研究 第一章 国語ニオケル時ノ論の経過(75頁〜)ノ時階ト動作態ノ金田一京助 東北方言の発音とそのアクセント
小林好	1	6	昭和十四年度講義 日本音声学ノ日本文法(三)	小林好日	1939年	箱(ノート4冊入り)	1箱	25×16
小林好	1	6	(ノート)[日本音声学]	小林好日	1939年	冊子(紐綴ノート)	1冊 336頁	25×16 講義ノート 第一章 緒論ノ第二章 音声研究と音声の単位ノ第三章 音声の分類ノ第四章 音声の連続ノ第五章 音節ノ第六章 国語の母音ノ第七章 国語の子音
小林好	1	6	(ノート)[日本文法(三)]	小林好日	1939年	冊子(紐綴ノート)	1冊 94頁	25×16 講義ノート 第二章 国語学の研究法ノ第二章 言語と国語 ページがかなりバラバラになっている。章番号が連続している理由は、不明。おそらく後ろの「言語と国語」は第三章であると思われる。1-6-3に続くかと思われるが、第一章の前半と、第四章が抜けている。
小林好	1	6	(ノート)[日本文法(三)]	小林好日	1939年	冊子(紐綴ノート)	1冊 80頁	25×16 講義ノート 第五章 体言ノ第六章 用言総説ノ第七章 用言の活用ノ ※ページがかなりバラバラになっている。1-6-2から、もしくは、1-2-2から続くかと思われる。
小林好	1	6	(ノート)[日本音声学か]	小林好日	1939年	冊子(紐綴ノート)	1冊 48頁	25×16 講義ノート Sound systemノPsychological PhoneticsノThe Acoustician's viewpoint ※ページがかなりバラバラになっている。
小林好	1	7	昭和十六年度講義 国語学の原理ノ葡人文典解説	小林好日	1941年	箱(ノート1冊入り)	1箱	20.4×15.9 箱には、「昭和十六年度講義 国語学の原理 葡人文典解説」とあるが、実際は、「葡人文典解説」のみ。表題の「国語学の原理」を欠く。

小林好日文書目録

整理番号	表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記
小林好 1 7 1	(ノート)[葡人字典解説]	小林好日	1941年	冊子(紐綴ノート)	1冊 52頁	20.4×15.9	講義ノート。1～24頁まで番号有り/キリシタンとRodriguez/吉利支丹版Rodriguez/文典
小林好 1 8	昭和十五年度講義 国語史/国語学概論(三)	小林好日	1940年	箱(2冊入り)	1箱	22.1×17.7	内容的に「国語学概論(三)」か。「国語史」の所在は不明。
小林好 1 8 1	(ノート)[国語学概論(三)]	小林好日	1940年	冊子(リングファイル)	1冊 140頁	22.1×17.7	講義ノート 第二章 言語学と国語学/第四章 音声と文字/第五章 国語の音韻。以下は1-8-2に続く。 ※第二章と第四章の間(37頁から46頁)欠。おそらく第三章であったと思われる。黒のカバー。10～22、24～36、47～103の頁番号あり。ただし、1～9、23、37～46は無し、50は重複。
小林好 1 8 2	(ノート)[国語学概論(三)]	小林好日	1940年	冊子(リングファイル)	1冊 132頁	22.1×17.7	講義ノート(1-8-1の続き) 第六章 語詞/第七章 国語の時代 ※茶色のカバー(104～128、130～170の頁番号あり。ただし、129は無し)。
小林好 1 9	昭和十七年度講義 近代語音韻論/国語文章法	小林好日	1942年	箱(2冊入り)	1箱	19.5×15.5	
小林好 1 9 1	表紙なし[近代語音韻論]	小林好日	1942年	冊子(紐綴ノート)	1冊 112頁	19.5×15.5	講義ノート(表紙なし) 第一章 音声と音韻/第二章 音韻資料
小林好 1 9 2	表紙なし[国語文章法]	小林好日	1942年	冊子(紐綴ノート)	1冊 144頁	19.5×15.5	講義ノート(表紙なし) 第一章 文と語/第二章 単語/言語の機能と文の構成
小林好 1 10	昭和十八年度講義 通論(上)/東北方言研究	小林好日	1943年	箱(2冊入り)	2冊(1箱) 1-10-1 132頁	20.5×16.5	箱には、「昭和十八年度講義 通論(上) 東北方言研究」とあるが、実際は「通論」のみ。表題の「東北方言研究」を欠く。 ※通論(上)と(下)か。
小林好 1 10 1	(ノート)[通論(上)か]	小林好日	1943年	冊子(リングファイル)	1冊 132頁	20.5×16.5	講義ノート 序論/第一章 原史時代の国語/第三章 奈良朝の言語/第三章 奈良朝の言語と平安朝の言語/第四章 平安朝の音韻変化 ※通論(上)か。1-10-2に続く。
小林好 1 10 2	(ノート)[通論(下)か]	小林好日	1943年	冊子(リングファイル)	1冊 172頁	20.5×16.5	講義ノート(1-10-1の続き) 第五章 平安朝の言語/第六章 院政鎌倉時代の言語/第七章 室町言語の言語/第八章 室町言語の音韻とその後の変化/第九章 江戸時代の言語 ※通論(下)か。
小林好 1 11	「日本文法論」(およびG. B. Sansom著『An historical grammar of Japanese』)	小林好日(Ⅲ)(Ⅴ)(Ⅵ)にy.kobayasiの署名あり	1931年	冊子(ノート、箱入り)	6冊(各144頁、1箱)	21×16.5	箱の表題には「日本文法論 サンソム著 小林好日記」と書かれている。「日本文法論 法政大学文学部昭和六年度講義」は講義ノート。「日本文法論(その二)」以降はG. B. Sansom著『An historical grammar of Japanese』の訳。サンソムは東北大学附属図書館書庫に原本有り。小林旧蔵書。
小林好 1 11 1	(ノート)日本文法論	小林好日	1931年	冊子(ノート)	1冊(144頁)	21×16.5	(講義ノート)日本文法論 法政大学文学部昭和六年度講義 第一章 緒論/ 第一節 文法/概念/ 第二節 文典/種類/ 第三節 国語/文典/歴史/ 第四節 品詞の類別/ 第五章 待遇法
小林好 1 12 2	(ノート)日本文法論(その二)	小林好日	1931年	冊子(ノート)	1冊(144頁)	21×16.5	G. B. Sansom著『An historical grammar of Japanese』の訳。 The Substantive から IV. The Adjective まで
小林好 1 12 3	(ノート)日本文法論(Ⅲ)	小林好日	1931年	冊子(ノート)	1冊(144頁)	21×16.5	G. B. Sansom著『An historical grammar of Japanese』の訳。 サンソムの V. The Verb (途中まで)
小林好 1 13 4	(ノート)日本文法論(Ⅳ)	小林好日	1931年	冊子(ノート)	1冊(144頁)	21×16.5	G. B. Sansom著『An historical grammar of Japanese』の訳。 V. The Verb (途中から)、VI. Auxiliary Verbs aru and suru、VII. The Particles (途中まで)
小林好 1 13 5	(ノート)日本文法論(Ⅴ)	小林好日	1931年	冊子(ノート)	1冊(144頁)	21×16.5	G. B. Sansom著『An historical grammar of Japanese』の訳。 VII. The Particles (途中から)
小林好 1 14 6	(ノート)日本文法論(Ⅵ)	小林好日	1931年	冊子(ノート)	1冊(144頁)	21×16.5	G. B. Sansom著『An historical grammar of Japanese』の訳。 VIII. The Adverb 以降
小林好 1 12 1	国語音韻史(Ⅰ)	小林好日		冊子(ノート)	1冊 128頁	21.3×16.8	講義ノートか(1-13へ続く) 第一章 言語と生活/第二章 音声と文字/第三章 国語音韻史/研究資料/第四章 現代音韻組織/第五章 音声史/研究方針/第六章 室町時代/音韻組織/第七章 室町末期ヨリ現代へ/音声/変遷(第一 せ/仮名/表ス音/第二 スツシチ/濁音/第三 ハ行音/第四 お段/長音) ※1-12、1-13の内容を講義用に整理したものが1-4-1である可能性、あるいは、1-4-1をもとに1-12、1-13を執筆した可能性もあるが、直接の関係は見当たらない。
小林好 1 12 2	国語音韻史(Ⅱ)	小林好日		冊子(ノート)	1冊 79頁	21×16.5	講義ノートか(1-12の続き) 第七章 第五 クワ-グワ/第六 ガ行音/変遷/第七 連声/第八章 奈良朝時代/音韻組織/奈良朝以後室町時代/音韻変化 ※講義ノートか。抜き書き添付あり。 1-12、1-13の内容を講義用に整理したものが1-4-1である可能性、あるいは1-4-1をもとに1-12、1-13を執筆した可能性もあるが、直接の関係は見当たらない。

小林好日文書目録

整理番号			表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記
小林好	I	13	(ノート)[講義用雑録]	小林好日		冊子(ノート)	1冊 56頁	20.5×16.0	講義ノートか 雑記/かざし抄/天尔遠波 友鏡/鈴木胤 言語四種論 一頁目に、学生名の記載あり(東北大学の学生)。他にも、52頁以降に学生名有り。
小林好	I	14	(ノート)[落窪物語講義]	小林好日	1934年以前か	束(ノート)	302頁	22×17	講義ノートか。第三章 落窪物語ニ現レタル平安初期ノ思想/第四章 落窪物語ニ現レタル人物及土地/第五章 落窪物語の文学的価値/第六章 後代文学に及したる落窪物語の影響古代における衣食住についての記述(平安初期ノ宮臣生活、一般庶民の生活など)。落窪物語人物一覧とあるプリント2枚(下書き2枚あり)/小林好日の住所を書いた紙1枚(神奈川県のもの)/新聞小説(周三人)の切り抜き3枚(上・中・下)あり
小林好	I	15	(ノート)[講義用雑録]	小林好日		冊子(ノート)	1冊 60頁	20.5×16	講義にあたっての覚書か。表と裏の双方からの記述あり。表からは「かけろう日記」(1頁～6頁)、「源氏物語」(7頁～9頁)、「とりかへばや物語」、「太平記」など (28頁まで)。物語の人物の関係図などが整理されている。裏の29頁～60頁からは、助詞・助動詞、掛詞、副詞の用法や用例などが書かれている。

小林好日文書目録

整理番号	表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記	
II 原稿								
小林好	II 1	国語学通論 旧稿一	小林好日	1943年11月	冊子(製本済原稿用紙)	1冊 約250頁	20.9×16.8	序／第一章 序説／第二章 音韻論／第三章 音韻の変遷／第四章 文字論／第五章 意義論／第六章 文体論／第七章 国語の時代／第八章 方言論／第九章 系統論 ※III-1の著作と目次は全く同じ。II-1～II-4の旧稿を清書しつつ、修正を加えたものがII-5～II-8と思われる。この冊子(旧稿一)の目次における第一章～第三章に該当する箇所が記述されている。
小林好	II 2	国語学通論 旧稿二(文字)	小林好日		冊子(製本済原稿用紙)	1冊 300頁位	21×16	旧稿一の目次にある「第四章 文字論」にあたる
小林好	II 3	国語学通論 旧稿三	小林好日		冊子(製本済原稿用紙)	1冊 414頁	21×15	旧稿一の目次にある「第五章 意義論」にあたる
小林好	II 4	国語学通論 旧稿四	小林好日		冊子(製本済原稿用紙)	1冊 310頁	21×15	表紙半分のみ。 旧稿一の目次における第六章以降
小林好	II 5	国語学通論一	小林好日		冊子(製本済原稿用紙)	1冊 286頁	20.5×14.5	印刷の指示入り。決定稿。II-1にあつた序と目次は省略されている。仮番II-5～II-8は、II-1～II-4の旧稿を清書しつつ、修正を加えたものと思われる。III-1は、II-5～II-8の原稿がもたっている。 第一章 序説／第二章 音韻論／第三章 音韻の変遷
小林好	II 6	国語学通論二	小林好日		冊子(製本済原稿用紙)	1冊 330頁	20.5×14.5	印刷の指示入り。決定稿 第四章 文字論
小林好	II 7	国語学通論三	小林好日		冊子(製本済原稿用紙)	1冊 382頁	20.5×14.5	印刷の指示入り。決定稿 第五章 意義論
小林好	II 8	国語学通論第四冊	小林好日		冊子(製本済原稿用紙)	1冊 294頁	20.5×14.5	印刷の指示入り。決定稿 第六章 文体論／第七章 国語の時代／第八章 方言論／第九章 系統論
小林好	II 9	方言語彙学的研究一	小林好日		冊子(製本済原稿用紙)	1冊 210頁位	21×15	方言語彙学と言語地理学／言語地理学的方法の批判／観念は如何に名を変へるか／語の拡張と切断／意味の配分 ※佐藤喜代治氏が『方言語彙学的研究』(岩波書店、1950年発行)の「あとがき」において、「研究室に残された草稿」には三種類あると述べている。「最初の下書き」に当てはまると思われる。
小林好	II 10	方言語彙学的研究二	小林好日		冊子(製本済原稿用紙)	1冊 210頁位	21×15	六、同音語の作用／七、語源論／八、母音の交替／九、新語の発生／十、助詞の形成(本文中では形態素の諸相) ※II-10を清書したものがII-13、II-14であると思われる。／佐藤喜代治氏が『方言語彙学的研究』(岩波書店、1950年発行)の「あとがき」において、「研究室に残された草稿」には三種類あると述べている。「最初の下書き」に当てはまると思われる。
小林好	II 11	方言語彙学的研究一	小林好日		冊子(原稿用紙、ひもとじ)	1冊、175頁	24.5×17.3	目次、一 方言語彙学的研究と言語地理学、二 地理学的方法／※II-9をII-11とII-12の二つに分けて清書したものである。
小林好	II 12	方言語彙学的研究二	小林好日		冊子(原稿用紙、ひもとじ)	1冊、210頁	24.5×17.3	三 事物は如何に名を変へるか、四 語の拡張と切断、五 意味の配分／※II-9をII-11とII-12の二つに分けて清書したものである。
小林好	II 13	方言語彙学的研究三	小林好日		冊子(原稿用紙、ひもとじ)	1冊 143頁	24.5×17.3	六 同音語の心理／七 語源論 ※佐藤喜代治氏が『方言語彙学的研究』(岩波書店、1950年発行)の「あとがき」において述べる三種類の草稿の第二段階目、「十章よりなるもの」に当てはまると思われる。刊行された書籍は十二章であるが、この資料との関係では、「六 同音語の心理」の部分が、刊行された書籍では、「第七章 同音牽引と同音衝突」と「第八章 意味の移入」とに分かれている。 ※II-10をII-13とII-14の二つに分けて清書したものである。II-10には別の紙を張り合わせた修正や追加などが見られるが、その修正を反映したものである。また、II-11、II-12は、別の用紙(インクが異なる)による追加が見られる。おそらく、II-10を清書(II-11、II-12)した後、さらにそのII-11、II-12に別紙で修正を加え、綴じ直したものである。
小林好	II 14	方言語彙学的研究四	小林好日		冊子(原稿用紙、ひもとじ)	1冊 162頁	24.5×17.3	八 母音の変化／九 新語の発生／十 形態素の諸相 ※調査結果を集計した紙が一枚はさまれている。佐藤喜代治氏が『方言語彙学的研究』(岩波書店、1950年発行)の「あとがき」において述べる三種類の草稿の第二段階目、「十章よりなるもの」に当てはまると思われる。II-10をII-13とII-14の二つに分けて清書したものである。
小林好	II 15	[講演原稿]	小林好日		冊子(ノートの一部を重ねたもの)	1冊(10枚)19頁、裏に記述無し、1枚のみ半分)	16.7×20.6	以下のような言葉に関する記述が書かれている。講演の原稿か。 ・言葉ニ関シタコトハ(英語デハ speech ト lang/仏語デハ parole Langue language/日本語デハ ことば はなし)ノ言語ノ運用ト音声ノはなしトイフ行動ノ日本人ハ目上カ同輩カ目下カニヨツテ語ガ別々ニツカハレル(西洋人ト反スル)ノ言語ノ教育モ亦一種ノシツケデアル (ことばニヨリテ日本人ハ日本人ノ性格ヲ作り出シテ居ル)ノ日本人ハ敬語ト云フ特殊ノことばヲ作り出シタ (ことばハ社会ガ作り出シタモノデアル)
小林好	II 16	日本語の成立と原史時代の日本語	小林好日		冊子(原稿用紙、ひもとじ)	1冊 34枚	21×15	原稿。「文学」昭和19.2.1.の原稿か

小林好日文書目録

整理番号			表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横: cm)	内容注記
小林好	II	17	翻訳原稿 ポルケエチンスキー 原著 言語学概論	小林好日		冊子(原稿用紙ひも 綴じ、封筒入り)	1冊 273枚	25.5×17.7	EINLEITUNG IN DIE SPRACHWISSENSCHAFT (VON. V. PORZEZINSKI)の全訳である。 序／一、言語学の対象、其の課題、及び方法(3頁～)／二、言語学史の要点(10頁～)／三、言語の系譜学的分類(44頁～)／四、言語の系譜学的分類(結論)(72頁～)／五、語音生理学(音声学)(94頁～)／六、精神作用の主因としての言語(127頁～)／七、単語。語詞形式。独立語の形式構成。／単語の形式上の分類。言語の形態学的分類(136頁～)／八、語群及び文章(157頁～)／九、言語の変化(163頁～)／十、言語の起源(226頁～)／十一、印度ゲルマン言語及び有史以前の印度ゲルマン語(232頁～)／補遺 (271頁～)
小林好	II	18	[卒業論文 Altjapanische Tempuslehre／日本上代時化論]	小林好日		冊子(箱入り)	1冊(238頁)	33.2×21.5	東京帝国大学文科大学の卒業論文。内容:序論／本論第一 上代ノ言語(8頁～)／第二 國語ニ於ケル時化論ノ經過(14頁～)／第三 心理上ノ時ト文法上ノ時トノ心理ヨリ見タル時(21頁～)／二 山田孝雄氏ノ文法上ノ時ノ論(25頁～)／三 岡澤鉦次郎氏ノ時化論(31頁～)／第四 時階ト動作態 一 印欧語ニ於ケル時化論ノ經過(40頁～) 二 時化論ノ論理的配列(54頁～) 三 時化論ノ發生論的研究(59頁～)／第五 時化ヲアラハス形式(72頁～)／第六 紀記ノ時化接辭(82頁～)／第七 ぬつ ← ぬ、つニ關スル学説(93頁～)／二 旧学説ノ難點ト新研究者ノ立脚点(120頁～)／三 ぬ、つノ動作態(完了態ト已然態)(132頁～)／四 紀記萬葉集ニ於ケルぬ、つノ一覽(162頁～)／第八 きてけり(189頁～)／第九 り(228頁～)／第十 動詞ノ現在形時ノ標準(250頁～)／第十一 存在繼續態(265頁～)／第十二 む)。237頁～282頁まで落丁。参考書目2頁あり。

小林好日文書目録

整理番号	表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記
Ⅲ 著書							
小林好 Ⅲ 1	国語学通論	小林好日	1944年12月30日初版発行	冊子(刊行書籍)	1冊 423頁	21×15	弘文堂書房刊。書き込み有り。343頁に原稿の貼り付けあり。目次は、Ⅱ-1と同じである。Ⅱ-5～Ⅱ-8の原稿がもたれている。
小林好 Ⅲ 2	国語国文法要義	小林好日	1927年2月28日発行	冊子(刊行書籍)	1冊 635頁	22.5×15.8	Ⅲ-4と同じ書籍であるが、70頁から478頁まで落丁している。また、その落丁箇所、18-2が挟まれており、著書と同じ部分が重複して保存されていることになる。
小林好 Ⅲ 3	国語国文法要義	小林好日	1927年2月28日発行	冊子(刊行書籍)	1冊 635頁	22.5×15.8	1頁から500頁まで落丁。カバーも見当たらない。Ⅲ-4と同じ著書であるが、Ⅲ-2の落丁部分にはさまれる形で残されている。
小林好 Ⅲ 4	国語国文法要義	小林好日	1927年2月28日発行	冊子(書籍、箱入り)	1冊 653頁	22.5×15.8	京文社出版刊。113頁と114頁の一枚のみ落丁。Ⅲ-2、Ⅲ-3と同じ著書であるが、こちらは2頁の落丁を除き、刊行された形態を保っている。
小林好 Ⅲ 5	国語学概論	小林好日	1930年6月20日発行	冊子(刊行書籍)	1冊 345頁	22.5×16	発行所 萬上閣 水天宮御守入り 書き込み多し。 第一章 序説／第二章 言語と文字／第三章 類推作用／第四章 国語の系統／第五章 文字／第六章 国語の音韻／第七章 仮字遣／第八章 国語の語詞構成／第九章 国語の品詞／第十章 国語の文構成／第十一章 口語と文語／第十二章 方言と標準語／第十三章 国語の時代
小林好 Ⅲ 6	日本文法史	小林好日	1936年9月20日発行	冊子(書籍、箱入り)	1冊 301頁	22×16	書き込み多し / 刀江書院刊
小林好 Ⅲ 7	金槐集評釋	小林好日	1927年5月18日発行	冊子(書籍、箱入り)	1冊 573頁	18.9×13.4	厚生閣刊／巻末に小林好日が受け取ったはがきが付され、また書評についてもはりつけられている
小林好 Ⅲ 8	国語資料 現代詩鑑賞	小林好日	1927年8月25日発行	冊子(書籍、箱入り)	1冊 367頁	19×14	東洋図書株式会社発行
小林好 Ⅲ 9	参考 増鏡新釋	小林好日	1928年5月20日発行	冊子(書籍、箱入り)	1冊 610頁	22.5×16	大同館書店刊

小林好日文書目録

整理番号	表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記
IV 受講ノート							
小林好	IV 1	(ノート)国語学概論 保科助教授述/日本文法 上田教授述	小林好日	冊子(製本ノート)	1冊 574頁	21×15.5	東京帝国大学在学当時の受講ノート。背表紙に「JAPANISCHE SPRACH WISSENSCHAFT」とある。保科孝一助教「国語学概論」(第一編 総論/第一章 国語学の目的及び範囲/第二章 国語学と古典学との関係/第二編 国語ニ対スル言語学的研究/第一章 歴史的研究/第二章 比較的研究/第三章 国語の一般的研究)および上田萬年教授「日本文法」(日本文法/研究法/文典/定義/文典/起ル原因/文法/function/文法/種類/文法/歴史/日本語全体ニツキテ/言語研究の方法/日本文法(I. Phonology/II. 日本語形態学上/研究)/品詞論/Syntax)
小林好	IV 2	(ノート)[言語学 保科孝一述]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 96頁	21×16.5	東京帝国大学在学当時の受講ノート。保科孝一述。第一章 総論/第二章 言語学/目的/第三章 言語/定義/第四章 文字/第五章 言語思想/関係/第六章 言語/変化/第七章 言語/体系変化/第八章 言語/意義変化/第九章 言語/消滅/第十章 新語/発生/第十一章 言語/混和 付 借用語/第十二章 方言分布/状態/第十三章 言語/起源/
小林好	IV 3	(ノート)藤岡教授述 言語学各論	小林好日	冊子(ノート)	1冊 124頁	21.5×16	東京帝国大学在学当時の受講ノート。藤岡勝二述。内容:言語の分類法(Asiatische africa/Amerika などの各地の言語についての記述)/系統上/分類/Steinthat:grammatik,Logiku psychologic,1855 Berlin ※IV-8との関係は不明だが、内容は異なる。IV-8は、音に関する概論が中心だが、IV-3は、言語の系統について述べている。
小林好	IV 4	(ノート)藤岡教授述 声音学	小林好日	冊子(ノート)	1冊 113頁	21×16	東京帝国大学在学当時の受講ノート。藤岡勝二述。内容:Literatur序論/本論(音総論/発音器官/構造/音/結合/Syllable/Melody and Rhythm)
小林好	IV 5	(ノート)藤岡国語学	小林好日	冊子(ノート)	1冊 84頁	20.5×16.5	東京帝国大学在学当時の受講ノート。藤岡勝二述。内容:見出し等なし。尊敬語、丁寧語、代名詞、打消、てにをは、自他、受身、活用形など。
小林好	VI 6	(ノート)国語学概論 其二	小林好日	冊子(ノート)	1冊 113頁	21×16	受講ノートか。内容:名詞 noun/動詞(verb) zeit wort/活用形/助動詞/Syntax ※I-3-2である可能性は低い。
小林好	IV 7	(ノート)[金沢庄三郎 日韓比較文法]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 114頁	20×16	受講ノートか。中に「日韓比較文法 金沢庄三郎」の表記あり。内容:緒論(7頁~/第一章 文字/話(15頁~/第二章 音韻/話(39頁~/第三章 文法/話(58頁~/
小林好	IV 8	(ノート)言語学概論 藤岡勝二氏述	小林好日	冊子(ノート)	1冊 141頁	21×16.5	東京帝国大学在学当時の受講ノート。内容:研究法/人類言語/articulation 節音/母音/Morphology
小林好	IV 9	(ノート)口語法と文語法	小林好日	冊子(ノート)	1冊 123頁	21.2×16.2	「講義筆記ナルベシ」と書かれた紙片1枚あり。吉岡郷甫によるものか。直接受講のノートではない可能性あり。内容:用言論/第一編 動詞(第一章 動詞活用の種類<第一節 四段活用、ラ行変格活用 なる変格活用/第二節 上一段活用、上二段活用/第三節 下二段活下一段活/第四節 加行変格活用/第五節 佐行変格活用/>/第二章 動詞活用形/用法/第三章 動詞活用形/音便/第四章 動詞/自他/第五章 動詞/待遇/第二編 形容詞(第一章 活用/第二章 語幹、活用形/用法/ 第三章 形容詞活用形/音便/第四章 形容動詞)
小林好	IV 10	(ノート)芳賀教授述 古事記研究	小林好日	冊子(ノート)	1冊 136頁	21×16	東京帝国大学在学当時の受講ノートか。芳賀矢一述。内容:緒論/解題/古事記/歴史的研究/上代国民/生活状態/古事記/神話的研究/宗教上ヨリ見タル古事記/言語学上ヨリ見タル古事記/文学上ヨリ見タル古事記
小林好	IV 11	(ノート)国文学史綱要	小林好日	冊子(ノート)	1冊 196頁	21×16	内容:総論/平安朝文学/鎌倉以後/文学 各時代の代表的な作品などについて解説されている。/表題の「綱」は判読難。
小林好	IV 12	(ノート)佐々醒雪講 日本文学史	小林好日	冊子(ノート)	1冊 169頁	20.5×16	受講ノートか(途中で紙が1枚はさまれている)、佐々醒雪(政一)述。ただし直接受講のノートではない可能性あり。内容:第一章 上古文学(1頁~/第二章 平安期(24頁~/近古前期 第一章 新古今と師範家(68頁~/第二章 中古調/文章ト方言記及徒然草(73頁~/第三章 戦記文ト正統記(76頁~/近古後期 第一章 連歌/流行(80頁~/第二章 謡曲と狂言記(87頁~/第三章 文運衰頹/状態ト通俗文学/萌芽(92頁~/近世前期 第一節 貞門の俳諧と和学(100頁~/第二節 談林の俳諧と西鶴の浮世草子(107頁~/第四節 古浄瑠璃と門左(115頁~/第五節 歌謡ト歌舞伎(122頁~/第六節 八文字屋本(127頁~/第七節 蕉風俳諧(132頁~/第八節 文化ノ東遷ト学門ノ盛時(137頁~/後期 第一節 滑稽文学ノ勃興(139頁~/第二章 学問ノ影響ト読本及び合巻(152頁~/第三節 中本と人情本(157頁~/第四節 後期ノ歌と俳諧(164頁~/
小林好	IV 13	(ノート)[実験心理学 松本亦太郎氏述]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 215頁	21×16.5	受講ノートか。松本亦太郎氏述。内容:感覚のintensity/Discrimination threshold/Lag of intensity/感覚の残留 Lag of sensation など ※132頁から142頁まで余白(途中切り取りあり)
小林好	IV 14 1	(ノート)[心理学概論一 元良勇次郎述]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 142頁	21.5×16	受講ノートか? IV-11に続く。東大心理学教授元良勇次郎述。内容:第一章(題名なし)/第二章 刺激反応及び感覚/第三章 心的組織ニ必要ナル条件ニツキテ/第四章 感覚論/第五章(題名なし)/第六章 表象及び記憶/第七章 表象ノ流動性 ※IV-16,IV-17と内容的には似かよるが、別物。
小林好	IV 14 2	(ノート)[心理学概論一 元良勇次郎述]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 131頁	21.5×16	受講ノートか? IV-14-1に続く。東大心理学教授元良勇次郎述。受講ノート。内容:第八章 表象ノ組織(5頁~/第九章 外界ノ知覚(44頁~/第十章 個人ト社会トノ関係(74頁~/第十一章 感情論(93頁~/第十二章 特殊感情(119頁~/

小林好日文書目録

整理番号			表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記
小林好	IV	15	(ノート)[心理学概論—元良勇次郎述]	小林好日		冊子(ノート、ひも綴じ)	1冊 376頁 +1枚	21.5×16.5	元良勇次郎述。受講ノートか。内容:第一章 総論 心理学研究ノ範圍及方法/第二章 心理学上三ノ個ノ根本的事実/第三章 心的組織ニ要スル五個ノ条件/第四章 人格活動及其研究ニツイテ/第五章 意識及ビ注意/第六章 感覚論/第七章 表象及ビ記憶/第八章 表象ノ活動法/第十一章 感情概論/第十二章 感情ト共表出法トノ關係/第十三 特殊感情/第十四章 活動作用/第十章 生理學ト生物学トノ關係/第十六章 心理学ト物理学/第十七章 心理学ト社会学/第十八章 心理学ト哲学 ※表紙なし、ノートノ1頁目ノ冒頭に表題あり。23頁目は脱落したものを一緒にしてある。
小林好	IV	16	(ノート)日本美術史、関野教授述	小林好日		冊子(ノート)	1冊 153頁	21.5×16.5	東京帝国大学在学中ノ受講ノート。関野貞述。内容:序論/時代ノ区分/平安時代(仏寺建築/神社建築/彫刻/神像)/藤原時代(建築/神社建築/彫刻)
小林好	IV	17	(ノート)美学概論	小林好日		冊子(ノート)	1冊 100頁	21×16.5	東京帝国大学在学中ノ受講ノート。3頁に目次あり。内容:第一章 科学トシテノ美学ノ任務及ビ方法 (5頁~)/第二章 美意識概論(審美的態度) (17頁~)/第三章 藝術ノ材料ト内容 (25頁~)
小林好	IV	18	(ノート)東洋史	小林好日		冊子(ノート)	1冊 13頁	21×17	受講ノート。内容:周ノ盛衰/春秋之末世及戦国ノ初期/秦ノ興衰/東漢ノ極盛/その他
小林好	IV	19	(ノート)国史	小林好日		冊子(ノート)	1冊 142頁	21×16.5	受講ノート。内容:第一部 緒論/第二部 本篇ノ第一 先史時代/第二 旧辞時代
小林好	IV	20	(ノート)論理学	小林好日		冊子(ノート)	1冊 135頁	21×16.5	受講ノートか。内容:Introduction/本論 part I. The Syllogism 三段論法/ part II. Inductive Methods
小林好	IV	21	(ノート)支那文学史	小林好日		冊子(ノート)	1冊 53頁	21×17	受講ノート。内容:春秋/魏—西晋/唐朝文学

小林好日文書目録

整理番号	表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記
V 研究ノート							
小林好	v 1	(ノート)漢字の研究(一)	小林好日	冊子(ノート)	1冊 212頁	21×16.5	「Notes of visit to Hachijū in 1878」 by F. V. Dickins & Ernest Satow /中、Dialectの項。 Sound & symbol in Chinese。 第一章～第六章
小林好	v 2 1	(ノート)漢字の研究二(乙)	小林好日	冊子(ノート)	1冊 136頁	21.1×16.6	内容: 第一章(北京語の例文一節)…広東語との比較など/第二章…象形文字、小篆など/第三章…四声、発音の変化など/第四章…韻書、方言差など。原則として奇数ページのみ記入(一部、偶数ページにも書き込み有り)
小林好	v 2 2	(ノート)漢字の研究 三(乙)	小林好日	冊子(ノート)	1冊 140頁	21×16.5	V2-1の続き。内容: 第四章の後半…漢音・吳音など/第五章…筆記具、筆記方法など/第六章…日本人の漢字漢語の使用など。奇数ページのみ記入(一部、偶数ページも書き込み有り)
小林好	v 3	(ノート)「漢字の研究二」	小林好日	冊子(ノート)	1冊 42頁	21.5×16.7	ノートの表題には「漢字の研究二」とあるが、内容は「文章法(統語論)」に関する覚書風ノート。漢字の話は無し。
小林好	v 4 1	(ノート)時の助動詞の研究	小林好日	冊子(ノート)	1冊 140頁	21×16.5	古典作品を対象とした助動詞の研究ノート。(用例の収集など)(全四冊あり) ※V1-6へ続く。
小林好	v 4 2	(ノート)時の助動詞研究 其の二	小林好日	冊子(ノート)	1冊 125頁	21×16.5	研究ノートと思われる。言語シリーズと同様の抜書あり(半分以上)。一部、時の助動詞に関する研究ノート。内容: Syntax、accidence、phonetics/研究ハ相互二関係アルコト ・Some principles of syntax/言語四種論/過去ノコトヲ現在形動詞シテ云フ例 など
小林好	v 4 3	(ノート)時化助動詞の研究 其の三	小林好日	冊子(ノート)	1冊 144頁	21×16.5	研究ノートと思われる。用例の収集など、雑多な内容
小林好	v 4 4	(ノート)時化助動詞の研究 其の四	小林好日	冊子(ノート)	1冊 144頁	21×16.5	研究ノートか。雑多な内容。内容: Zur lehre von ae perfektum/Tempus im Beowulf (E. nadar)/Zur lehre von der Aktionsarten/Vom Gebrauche der Tempora/Die Temporal - Formen/Interessant ist der gebauch der verbal Formen zum Ausdrunck/Psychologische u. grammatische Kategorie/Der verbal Begriff die Aktionsart
小林好	v 5 1	(ノート)萬葉集ノ研究法	小林好日	冊子(ノート)	1冊 143頁	21.5×16	研究ノートか。内容: 書名、作者/研究書目/萬葉集ノ歌数/本論(日本語歴史ノ概観/言語ヲ代表スル文字/仮名/言語ノ構造/萬葉ノ語/parts of speech)
小林好	v 5 2	(ノート)萬葉語研究法 其二	小林好日	冊子(ノート)	1冊34頁、6頁	21×16	研究ノートか。内容: 万葉ノ語/morphology/suffix/万葉ノ方言/枕詞ノコト
小林好	v 6	(ノート)国語史	小林好日	冊子(ノート)	1冊 104頁	20.5×16.9	内容: 奈良朝以前ノ言語ト奈良朝言語トノ関係/奈良朝ノ言語/奈良朝ト平安朝トノ間ニ在ル言語ノ差異/奈良朝ノ言語ノつきてノ散文ト韻文ノ祝詞ト宣命トノ関係/奈良朝言語ノ語論/代名詞ノ形容詞ノ奈良朝ノ動詞ノ互ル速波/奈良朝以後ノ紀記ノ歌ニ於ケル枕詞
小林好	v 7	(ノート)江戸語の研究(外題と背表紙)	小林好日	冊子(ノート)	1冊 97頁	20.9×16.7	内容: 以下の項目を中心として、各項目の説明や用例等が挙げられている。動詞ノ四段活用ノ二段活用ト一段活用ノ加変ノ佐変ノ助動詞などノ使役ノ受身ノ「る」らるノ尊敬ノた 時の助動詞トシテ優勢ナリノ否定ノ已然形ノ保存ノ未然形ノ保存ノ江戸語ノ上方語ノ代名詞
小林好	v 8	(ノート)[東北方言等に関するメモ]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 48頁	20×15.6	東北方言に関する記述など、雑多なメモ書き。東北方言江戸文字資料ノ東北地方ノ開拓(国民の日本史)/奥羽ニ於ケル交通ノ発達 など
小林好	v 9	(ノート)[研究雑録]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 170頁	20.5×16	内容: 人格概念・音韻変化・語順など多岐に渡っている。Sweet Vowels/人格的教育学/雑記用のノートか。間に市川商店(染め物屋)の移転通知の紙あり。
小林好	v 10	(ノート)[足利時代の言語]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 288頁	21.5×16	内容: 国語ノ時代的研究ノ足利時代言語研究ノ便宜ノ足利期言語研究ノ国語学ニ与ル光ノ文学史上ニ於ケル足利時代文学ノ位置ノ足利時代ノ文化。この他、主に室町時代の文法音韻に関する記述が多数ある。雑記ノートか。間に絵葉書(教会から)一枚あり
小林好	v 11	(ノート)文章論	小林好日	冊子(ノート)	1冊 63頁	21.5×16	内容: 第一章 文ノ成分ノ第二章 語、連語、節ノ第三章 文ノ成分ノ資格ノ文章法の内容だけでなく、「欲望」(49～59頁)「家族制度と個人主義」(61～63頁)というものもあり。
小林好	v 12	(ノート)[音韻論・音韻史]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 140頁	21×16	内容: 音韻論・音韻史に関するもの。音韻についての概説ノ五十音ノ音ノ変化ノ仮名遣ノ国語学(1音韻ノ2構造ノ3. 語彙ノ4. 単語法ノ5 文章法)syntaxノ字書 など
小林好	v 13	(ノート)[研究雑録]	小林好日	冊子(ノート、ひも綴じ)	1冊 222頁	23×18	さまざまなノートを寄せ集めた雑記か。内容: Growth of larger linguistic communities/東西方言の差異/analogueal change 基礎/Syntax/Standard language/Linguistic Variation/The Sentence/The mental Basis of language など
小林好	v 14	(ノート)[フランス語ノート]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 120頁	19.5×15.5	フランス語の受講ノートと思われる。最終ページに家計簿(八月)ありノ間に葉書あり
小林好	v 15	(ノート)國学史	小林好日	冊子(ノート)	1冊 77頁	21×16	最終ページに家計簿あり。給料も書いてある(75頁～76頁)/国学史～(3頁～16頁まで)/History of Language (Sweet,176) (31・32頁)/a.教育ノ方法ノ研究 b.教育ノ効果ヲ検スル方法ノ研究(35頁～)
小林好	v 16	(ノート)[研究雑録]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 80頁	20.5×16.5	内容: 集中最初二見ユルモノ(万葉集など)/語学新書ノ日本寄語

小林好日文書目録

整理番号		表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記
小林好	V 17	(ノート)国語学 国文解釈	小林好日		冊子(ノート)	1冊 140頁	21×16.5	書式の異なるノート(紙片)がはさまっている。内容が関係あるのかは不明。最終ページに落書きあり。大鏡／翻訳名義抄／(和楽)謡曲／俳文／参考書目(26頁～)／目録(49頁～、ページ番号24～)。1行目に"目録による"ときは研究の重複をさげ、後述を知られたる古人の知識の種類を知られる"とある。年表(55頁～、ページ番号30～)以下、様々な書物に関する記録あり(足利時代言語(82頁～)／古今和歌集 鳥山教授講(89頁～))
小林好	V 18	(筆写ノート)国語学二	小林好日		冊子(ノート)	1冊 138頁	21×16.5	研究ノート。論文等を摘記したもの。内容:古典以前カラ古典時代へ/「はた」の用例/標準語と辞正国語/国民学校教則案説明要領/平山輝男 日本語のアクセント/濱田耕作 日本文化/源泉/山田孝雄 国語の本質/濱田日本の民族言語 国民性及文化的の生活の歴史的発展/木村 日本考古学研究/春日政治 片仮名交り文の起源について/清野謙次 日本人の研究
小林好	V 19	(筆写ノート)国語学三	小林好日		冊子(ノート)	1冊 148頁	21×16.8	研究ノート。論文等を摘記したもの。内容:濱田耕作 日本の民族、言語、国民性及文化(的)生活の歴史的発展 考古学研究四一/肥後和男 大和文化(日本文化史大系第二巻)/中 政治及び制度
小林好	V 20	(筆写ノート)国語学四	小林好日		冊子(ノート)	1冊 144頁	21×16.7	研究ノート。論文等を摘記したもの。内容:春日政治 古訓語彙小攷 文学研究三三輯 昭十八、十二/春日政治(片)仮名交り文の起源について 文学研究第一輯/内藤虎次郎 古写本日本書紀解題/那珂直世 上世年紀考/星野恒 本邦上世紀年私考「文」第十三号/富岡謙蔵 古鏡の研究/神田喜一郎 日本書紀古訓攷証/木宮泰彦 日支交通史(日本と支那南朝との交渉)/高橋健自 考古学上より観たる邪馬台国
小林好	V 21	(筆写ノート)国語学五	小林好日		冊子(ノート)	1冊 146頁	21×16.8	研究ノート。論文等を摘記したもの。内容:高橋健自 考古学上より観たる邪馬台国(続)/山田孝雄 狗奴国考 考古学雑誌十二巻/森鷗外 心頭語 鷗外全集 著作篇十八/(書紀集解 首巻解題) 日本書紀研究の沿革/土居光知 日本語の将来、一節/島田春雄 民俗と言葉(明日の日本語)/津田左右吉 建国の事情と万世一系の思想一節(一、上代に於ける国家統一の情勢)昭和21.4月「世界」第四号/山本有三 もじと国民の一節 世界第四号/柳津正志 日本文明と国家の起源 中央公論 昭21年10月号/目次にはないが、島田と津田の間に、貴族院ニ於ケル金杉英五郎演説「明日の日本語」125がある
小林好	V 22	(筆写ノート)国語学六	小林好日		冊子(ノート)	1冊 106頁	20.8×16.5	研究ノート。論文等を摘記したもの。内容:古代歌謡の解釈法 遠藤嘉基(短歌研究)(十八・十・十二)/狂言のことば 亀井孝 能楽全書 五巻/助動詞「です」の用法についての私見 中村通夫 国語教育23-1(昭和13)/「民間伝承論」柳田国男 第八章 言語芸術/二巻本世俗字類抄コウ 岡田希雄(日本文化 十九号 昭十六)
小林好	V 23	(筆写ノート)国語学七	小林好日		冊子(ノート)	1冊146頁	21×16.5	研究ノート。論文等を摘記したもの。内容:柳津正志「日本文明と国家の起源」/西田直二郎「平安朝の京都」/清原貞雄「明治以前に於ける紀記の研究」/中村正勝「御子代御名代の意味について」/青柳秋生「書紀集解開題」/高橋穰「民主主義的教育の道德的原理」/木宮泰彦「日本交通史」
小林好	V 24	(筆写ノート)国語学八	小林好日		冊子(ノート)	1冊 3頁	20.5×16.5	研究ノート。論文等を摘記したもの。内容:「日本交通史」続きが3ページあるのみ あとは白紙
小林好	V 25 1	(筆写ノート)室町言語資料	小林好日		冊子(ノート)	1冊 144頁	21×16.5	言語資料の抜き書き、用例集。慶長倭玉篇、史記抄など。※25-11に続く。
小林好	V 25 2	(筆写ノート)室町言語資料	小林好日		冊子(ノート)	1冊 79頁	21×16	史記抄続(後半)。音曲口伝書。25-2からの続研究ノート。
小林好	V 26	(筆写ノート)雑兵物語・狂言八番	小林好日		冊子(ノート)	1冊 144頁	20.5×16.5	研究ノート。史料を筆写したもの。内容:雑兵物語 自序(3頁～77頁まで)/大蔵虎清自筆 狂言八番(78頁～138頁まで)/きんや(禁野)(79頁～)/なきあま(泣尼)(87頁～)/かがみをとこ(鏡男)(95頁～)/さるざとう(猿座頭)(102頁～)/文になひ(文荷)(110頁～)/かに山ぶし(蟹山伏)(117頁～)/やくすい(薬水)(121頁～)/どんごんさう(鈍根草)(129頁～)/144頁に、雑記あり
小林好	V 27	(筆写ノート)吉利支丹版懺悔録 狂言鈍太郎	小林好日		冊子(ノート)	1冊 65頁	21×16.5	背表紙に「国語学文献」とあり。吉利支丹版を写したもので、気になる語句にしるしあり。内容:コリヤード、コンフェション和訳/「切支丹迫害史中の人物事蹟」/「キリシタンの懺悔告白」など/最後のところに、「大正五年七月十四日批(批は、口で囲まれている)了 以上村岡典嗣氏翻字」とあり。「狂言鈍太郎」は収められていないと思われる。
小林好	V 28 1	(筆写ノート)謡開合假名遣	小林好日		冊子(ノート)	1冊 148頁	20.5×16.5	背表紙に、「謡開合假名遣(上)」とあり。「謡開合假名遣」は、「元禄十四辛巳六月吉日 大坂本町難波橋筋 高谷平右衛門様」のうつけし。本の内容を忠実に写している。原書の頁番号(一才など)を付している28-2「謡開合假名遣(下)」に続く。
小林好	V 28 2	(筆写ノート)謡開合假字遣(下)・在唐記	小林好日		冊子(ノート)	1冊 38頁	21×16.5	「謡開合假字遣」は、「元禄十四辛巳六月吉日 大坂本町難波橋筋 高谷平右衛門様」のうつけし。「在唐記」(仁仁記)所載のサンズクリット字の長短についての覚書きか。「伊勢物語 二条家清濁謡曲蜜訣」1頁。すべて音韻に関する古典の抜き書き。28-1からの続き
小林好	V 29 1	(筆写ノート)津田左右吉「古事記及び日本書紀の研究」	小林好日		冊子(ノート)	1冊 132頁	21×16.5	津田左右吉「古事記及び日本書紀の新研究」の書写ノート。29-21に続く
小林好	V 29 2	(筆写ノート)古事記及び日本書紀の研究	小林好日		冊子(ノート、外側ハードタイプ)	1冊 194頁	20.7×16.1	津田左右吉「古事記及び日本書紀の新研究」の書写ノート。29-31に続く
小林好	V 29 3	(筆写ノート)古事記書他	小林好日		冊子(ノート)	1冊 85頁	21×16.7	津田左右吉「古事記及び日本書紀の新研究」の筆写ノート(29-2のつづき) /高橋健自 考古学上より観たる邪馬台国 大正十年九月(国語学五)に続く) ほか
小林好	V 30	(筆写ノート)江戸研究	小林好日		冊子(ノート)	1冊 72頁	20.7×16.5	研究ノート。論文等を摘記したもの。内容:醒書 江戸趣味(13頁～)/天機如電 俗曲の由来(38頁～)/江戸趣味研究資料(「江戸趣味」ノウチ)(35頁～)/河竹繁俊 歌舞伎脚本の展開(48頁～)/稲産 奴詞(足新翁記)(62頁～)

小林好日文書目録

整理番号	表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横: cm)	内容注記
小林好	V 31	(筆写ノート)言語 中井正一(内題)5頁冒頭	小林好日	冊子(ノート)	1冊 188頁	20.5×16.5	哲学研究(昭和二、九月一日)(5頁~17頁) ツの仮名の古音を考ふ、大島正健(芸文 19年 3号 昭和3.5) (37頁~41頁) 思考ノ本質(遠水、論理学、第二章) (43頁~55頁)
小林好	V 32	(筆写ノート)[国語の系統及分派(伊沢)ほか]	小林好日	冊子(ノート)	1冊 126頁	21×16.5	研究ノート。論文等を摘記したもの。内容:国語ノ系統及分派(伊澤修二) (3頁~11頁)/小題大做(池田声波) (12頁~13頁)/東京語ノaccentニ関スル外人ノ研究 (14頁~19頁)/漢字ノ研究/読本の講義につきて(岡井二良) (52頁)/読本の教授につきて(横山栄次) 国語教育二巻三号 (53頁~56頁)/書取の任務(教育研究 水戸部貞松) (57頁~58頁)/文章における情意の要素(中島半次郎 国語教育二巻二号) (59頁~63頁)/日本画の諸流(滝靖一) (64頁~70頁)/副読本の利用につきて(保科)国語教育二巻12号(71頁~72頁)/読本・教材の研究(保科)国教書巻二号 (73頁~75頁)/教授法に囚はれるな(保科)国教三ノ8 (78頁)/読本教材教授の方法について(保科)国教三ノ二 (79頁~84頁)/言語の意義と語句の解釈について(次田潤 国教3ノ4)(84頁~85頁) など
小林好	V 33	(筆写ノート)雑録	小林好日	冊子(ノート)	1冊 36頁	21×16.5	研究ノート。論文等を摘記したもの。内容:日本童話の溯源 芳賀矢一/形容詞考 文学博士 金沢庄三郎/助動詞の二大別と時の助動詞 及川源治郎
小林好	V 34	(筆写ノート)[国語史(近世篇)]	小林好日	冊子	1冊 146頁	21×16	湯沢幸吉郎『国語史 近世篇』の抜書。
小林好	V 35 1	(翻訳ノート)言語(一) Sprachwissenschaft	小林好日	冊子(ノート)	1冊 144頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Palmer An Intro to modern Linguistics/Material of language Phoneme - word, phonetics of English/Jespersen New English Grammar, Intro/Wyld 歴史的研究法/Wyld Speaking of Writing (Growth of English 第7章)/Palmer Meaning & Change meaning/Introduction of Form & Function 35-2へ続く。
小林好	V 35 2	(翻訳ノート)言語二 Sprachwissenschaft	小林好日	冊子(ノート)	1冊 194頁	20.5×16.5	翻訳ノート。ブルームフィールド『言語』などの翻訳。内容:Bloomfield, Meaning/Tarapolewara, Form building & word building Max M?ller/Sechirst, The psychology of Unconventional language/Sapir, Form in language: grammatical Processes/Sayce, Roots/Bloomfield, Morphology/Bloomfield, Morphologic types/Bloomfield, Grammatical forms/Bloomfield, The Phoneme/Bloomfield, Types of Phoneme Tarapolewaraの綴りは原典のまま。正しくはTaraporewalaか。 35-3へ続く。
小林好	V 35 3	(翻訳ノート)言語三 Sprachwissenschaft	小林好日	冊子(ノート)	1冊 146頁	21×16.5	翻訳ノート。ブルームフィールド『言語』などの翻訳。Bloomfield, Types of phoneme/Bloomfield, Modification/Bloomfield, Phonetic Structure/Palmer, Interaction of Form & Function (continued)/Zipf, Psychobiology of language/Bloomfield, Phonetic Change/Bloomfield, Type of Phonetic Change ※35-4へ続く。
小林好	V 35 4	(翻訳ノート)言語四 Sprachwissenschaft	小林好日	冊子(ノート)	1冊 146頁	21×16.5	翻訳ノート。ブルームフィールドの翻訳。Bloomfield, Types of Phonetic Change/Bloomfield, Flutation in the frequency of forms/Bloomfield, Analogic change/Bloomfield, Semantic change/Bloomfield, Dialect Borrowing/Bloomfield, Dialect Geography ※35-5へ続く。
小林好	V 35 5	(翻訳ノート)言語五 Sprachwissen	小林好日	冊子(ノート)	1冊 146頁	21×16.5	翻訳ノート。ブルームフィールドなどの翻訳。Bloomfield-Dialect Geography (1頁~)/Bloomfield, The language of the world (3頁~)/Bloomfield, The comparative method (14頁~)/Bloomfield, Graff, -Meaning (47頁~)/Bloomfield, -Units of signification (74頁~)/1頁のDialect geographyは続き(小林本人の注記あり) ※35-6へ続く。
小林好	V 35 6	(翻訳ノート)言語六 Sprachwissenschaft	小林好日	冊子(ノート)	1冊 138頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:p1~p12 Graff - Units of signification(続) /Graff - Accentuation /Graff - Categorizing in language (言語ノ範疇化)/Graff - Change involving meaning/Graff - Prinaiples of language/Classification language 変化(方言) 別紙あり(1枚)※35-7へ続く。
小林好	V 35 7	(翻訳ノート)言語七 Sprachwissenschaft	小林好日	冊子(ノート)	1冊 145頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Vendryes, Phonetic system & their transformation/Vendryes, Phonetic word & verbal image/Vendryes, Words & morphemes/Vendryes, Different kinds of words/Vendryes, Language & languages/Vendryes, Dialect & Specialized language ※35-8へ続く。
小林好	V 35 8	(翻訳ノート)言語 八 Sprachwissenschaft8	小林好日	冊子(ノート)	1冊 146頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Vendryes - Standard & Common Language/Palmer - Writing Vendryes - The nature & Extent of vocabulary/Vendryes - How the meaning of words in modified/Vendryes - How the terms that express Ideas are changed (212)/Vendryes- Morphological mutation/Vendryes- Introduction (Origin of language) ※35-9へ続く。
小林好	V 35 9	(翻訳ノート)言語 九 Sprachwissenschaft9	小林好日	冊子(ノート)	1冊 146頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Vendryes - Introduction (continued)/言語ト文法 大塚高信 高等英文法講義序/Palmer - Sound in evolution/Bloomfield - Meaning, The Use of language/Sapir - The elements of speech/Sturtevant - Language & Dialect/Palmer - Linguistic geography ※35-10へ続く。

小林好日文書目録

整理番号				表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記
小林好	V	35	10	(翻訳ノート)言語十 Sprachwissenschaft 10	小林好日		冊子(ノート)	1冊 146頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Palmer, Linguistic Geography (continued)/Palmer, Language & thought/Sapir, Language as a Historical Product/Sapir, Drift/Vendryes, Grammatical categories (continued)/Vendryes, Affective language/Palmer, Introduction/Sapir, Language as a Historical Product: Phonetic Law ※35-11へ続く。
小林好	V	35	11	(翻訳ノート)言語十一 Sprachwissenschaft 11	小林好日		冊子(ノート)	1冊 113頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Noreen Dolak, Die Ursache der Sprech-Veränderungen/Noreen Dolak, Begriff der Bedeutungslehre/Tucker, Analogy/Tucker, 言語地理学/歴史ニツイテ/Gamillscheg, Zusammenfassung u. Lehre/Gamillscheg, 方言形成/問題/Gamillscheg, Die Frage der Mundartenbildung/Gamillscheg, Zur Frage der Lautwandels/Gamillscheg, Zur Frage der Wortwandelung/Gamillscheg, Formenlagerung/Dauzat, Synthese des evolutions phonétiques ※35-12へ続く。
小林好	V	35	12	(翻訳ノート)言語十二 Sprachwissenschaft	小林好日		冊子(ノート)	1冊 136頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Meyer - B?ike, Einf?hrung in das Studium der romanischen Sprach Gregoire, 言語学史素描/Meillet, J. Gilli?ron et l'influence de l'?tude des parlers locaux sur le d?veloppement du romanisme /Meillet, Linguistique historique Dauzat, l'evolution de la langue/Meillet, Le development des Langues/Meillet, Linguistique historique et linguistique g?n?rale/Gr?goire, Les changements phonétiques/Meillet, Continuit? linguistique 印欧語比較研究 争論/Meillet, L'evolution les formes grammaticales./Meillet, Sur le bilinguisme/Meillet, Sur une p?riode de biliguisme en France ※35-13へ続く。
小林好	V	35	13	(翻訳ノート)言語十三 Sprachwissenschaft 13	小林好日		冊子(ノート)	1冊 145頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Dauzat, Les phenomenes psychologiques/Dauzat, La vie et la mort des mots changements de sens/Dauzat, Le sectionnement des langues/Dauzat, Le d?veloppement des langues nationales/Oscar Bloch, Les recherches ?tymologiques (O? en sont les ?tudes de fran?ais)/Dauzat, Les luttes et la mort des langues/Dauzat, Conement se modifient les/Dauzat, sons du langage/Meillet, Les dialectes Meillet, Langue et civilisation ※35-14へ続く。
小林好	V	35	14	(翻訳ノート)言語學十四 Sprachwissenschaft 14	小林好日		冊子(ノート)	1冊 107頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Phonetic change/Le syst?me mat?riel du language/Phonetic law (Graff) Phonetic Law and Analogy/Bloch, Les recherches etymologiques(O? en sont les ?tudes de fran?ais 156)/Millardet, Le probl?me ?tymologique/Bloomfield, Written Records ※35-15へ続く。
小林好	V	35	15	(翻訳ノート)言語十五 Sprachwissenschaft	小林好日		冊子(ノート)	1冊 194頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Meillet, Sur le sens linguistique de l'unit? latine (歴史的言語学及一般的言語学)/Meillet, Diff?renciation et smification dans les langues (歴史的な言語学及一般的言語学)/Meillet, Phonologie actuelle/A. Sommerfelt, Sur le role des ?lements moteurs dans les changements phonologiques. Remarques sur la palatalisation des ans oraes/Bloomfield, Speech - Communités Bloomfield, Application & outlook/Sweet, Origin of Dialect/Partridge, Standard English (The World of Word) ※35-16へ続く。
小林好	V	35	16	(翻訳ノート)言語十六 Sprachwissenschaft 16	小林好日		冊子(ノート)	1冊 142頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Bloomfield The Study of language/Meyer - Lu'bke Roman 語学, methodik/Meillet, Comment les mots changent de sens/Gray, Semantics/Meillet, L'evolution des formes grammaticales/Dauzat, Le changements de forme /Gray, Language & society ※35-17へ続く。
小林好	V	35	17	(翻訳ノート)言語十七 Sprachwissenschaft	小林好日		冊子(ノート)	1冊 148頁 (ただしp105~108落丁)	21×16.5	翻訳ノート。内容:Pedersen, Linguistic affinities of the Indo - Europeans/Graff Indo - European Family/Graff Genealogical classification/Gray, Phonetics & Phonology/Meillet, Comment les mots changent de sens/B?hler, Kritische Musterung der neuern Theorien des Satzes/Meillet, Comment les mots changent de sens ※35-18へ続く。
小林好	V	35	18	(翻訳ノート)言語十八 Sprachwissenschaft	小林好日		冊子(ノート)	1冊 144頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Meillet Le renouvellement des langues (新欧語/言語)/Ewert French language/Bloomfield Morphology Marphological Type/Dauzat Le sectionnement des langues/Sturterant Language and Dialect/Meillet Extension des langues communes (Les langues dans l'Europe nouvelle)/Meillet Diff?renciation des langues communes/Meillet N?cessit? des langues nationales/Dauzat La philosophie des langue — Les trois aspects de la science./Sturtevant Change in Language ※35-19へ続く。
小林好	V	35	19	(翻訳ノート)言語 十九 Sprachwissenschaft 19	小林好日		冊子(ノート)	1冊 102頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Dauzat, Comment se modifient le sons de langage/Dauzat, Les phenom?nes psychologiques/Gillieron u. Roques/Tucker Phonetic change/Atkinson ギリシア語/起源 (The greek language)/Armenian language (Ereychopedia Britanica) Krapp, English sounds ("modern English")/泉井久之助 世界と日本語/矢内原忠雄 日本国民の使命と反省
小林好	V	35	20	(翻訳ノート) sprachwissenschaft 20	小林好日		冊子(ノート)	1冊 144頁	20.5×16.5	(翻訳ノート)ヴァンドリエス言語学概論か。内容:第一章 言語の起源/第二章 語と形態素/第三章 文法範疇/第四章 語の性数/第五章 感情言語/第六章 形態の変化/第七章 語彙の本質と分量/第八章 意義の変化/第九章 名称の変化/第十章 言語と国語/第十一章 方言と特殊国語/第十二章 共通国語/第十三章 諸国語の接触と混合/第十四章 国語の類縁関係と比較研究法/第十五章 言語の進歩 +L161※VIII-21に続く。

小林好日文書目録

整理番号				表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記
小林好	V	35	21	(翻訳ノート) Sprachwissenschaft21	小林好日		冊子(ノート)	1冊 94頁	20.5×16.5	翻訳ノート。「言語」シリーズの最終冊内容:Fichtes Reden an die deutsche nation vierte Rede La geographic linguistique en chine. N?cessit? d'une nouvelle m?thode pour l'?tude linguistique du chinois/Paul Serruys Philologie et linguistique dans les ?tudes sinologiques (La m?thode "w?rten und suchen" 語と物ト云フ方法 /「現代思潮[上]新明正道、婦人参政講座(40)」あり(新聞の切り抜きか) /「社説 デモクラシーの効用」あり(新聞の切り抜きか)+L162/VIII-20の続きが7頁分ある
小林好	V	36	1	(翻訳ノート)音声学一	小林好日		冊子(ノート)	1冊 162頁	21×16	翻訳ノート。内容:第一章 言語ト音声 ※第一章は挟み込み (1頁~8頁) / Mori, The pronunciation of Japanese /第二章 解説 (1頁~) /第三章 Close Front vowels (9頁~) /第四章 Half - Close Front vowels (17頁~) /第五章 Open Half - Front & Half - Back vowels (23頁~) /第六章 Open Back vowels (29頁~) /第七章 Close Half - Back vowels (35頁~) /第八章 日本語の母音一般 (41頁~) /第九章 両唇破裂音 (Bilabial plosive) (52頁~) /第十章 Alveolar Plosives (61頁~) /第十一章 Palatal & velar Plosive (71頁~) /第十二章 Bilabial nasal continuants (81頁~) /第十三章 Alveolar, palatal & velar nasals (87頁~) /第十四章 Liquid (104頁~) /第十五章 Aspirate (122頁~) /第十六章 半母音 (semivowels) (133頁~) /第十七章 Sibilant (139頁~) ※44-2へつづく。
小林好	V	36	2	(翻訳ノート)音声学二	小林好日		冊子(ノート)	1冊 146頁	21×16.6	翻訳ノート。44-22の続きで第十七章145頁からはじまる。第十八章 総括 (152頁~) /第十九章 音節の形成 (163頁~) /第二十章 Accent & Intonation (170頁~) /Graff, The Phonetic Elements in Language (182頁~) /Pillsbury, Speech organs (269頁~) /Ward, Qualification of the teacher (273頁~) /Noel Armfield, The Cardinal vowels (276頁~)
小林好	V	37	1	(翻訳ノート)Michel Br?al Essai de S?mantique(Science de Significations) 1897	小林好日		冊子(ノート)	1冊 145頁	20.5×16.5	ミシェル・ブレアルの『意味論』の翻訳。第一章~十六章。表題の「(Science de Significations)」は、Science des Significationsか。 ※37-2へ続く。
小林好	V	37	2	(翻訳ノート)Michel Breal Essai de Semantique(Science de Significations) meillet Comment les mots changent de sens II 1897	小林好日		冊子(ノート)	1冊 135頁	20.5×16.5	ミシェル・ブレアルの『意味論』の翻訳。第十七章~二十六章。 /Meillet, comment les mots changent de sens (続) 表題の「(Science de Significations)」は、Science des Significationsか。 37-1の続き。
小林好	V	38	1	(翻訳ノート)??mens de la grammaire japonaise par le P.Rodriguez Rodriguez, Grammaire	小林好日		冊子(ノート)	1冊 144頁	20.5×16.5	翻訳ノート。内容:Pro?gom?nes/noms substantifs/活用/pronom primitif, d?riv?s et possessifs/conjugasons /第一活用肯定動詞/直説法及命令法 /第二活用動詞/作り方 /第三活用動詞/作り方/形容動詞否定/活用 /存在動詞否定/活用/文語/肯定活用 /否定活用 /形容動詞/活用 /第二篇/品詞/名詞/形容詞/疑問詞 /関係詞/比較級最上級/動詞/形容動詞/分詞/後置詞/属辞/冠詞/文章法 など ※38-2へ続く。
小林好	V	38	2	(翻訳ノート)Rodriguez	小林好日		冊子(ノート)	1冊 23頁	20.5×16.5	38-1の続き (1頁~8頁, 19頁~23頁)。また、アイヌ語の音韻(金田一京助、知里真志保著 アイヌ語法概説抄)も11頁~17頁にある。内容:敬語ニツイテ (143頁) /名詞ニ結ビツク尊敬謙遜ノ辞ニツイテ (143頁~) /こそノ用法ニツイテ (145頁) /文語ノ態ニツイテ (146頁) /内典ノ文体 (148頁) /外典ノ文体 (149頁) /固有名詞/個人ノ固有名詞
小林好	V	39	1	(翻訳ノート)Endmann Die Bedeutung des Wortes(1)	小林好日		冊子(ノート)	1冊 143頁	20.5×16.5	エントマンEndmann『語の意味』の翻訳。39-2へ続く。
小林好	V	39	2	(翻訳ノート)Endmann Die Bedetung Des Wortes Endmann, Bedeutung	小林好日		冊子(ノート)	1冊 124頁	20.5×16.5	エントマンEndmann『語の意味』の翻訳。39-1の続き。
小林好	V	40		(翻訳ノート)La Vie des mots ?tudi?e dans laurs significations par Ars?ne Dasmesteter 翻訳	小林好日		冊子(ノート)	1冊 130頁	20.5×16.5	Ars?ne Darmesteterの翻訳。内容:第一部 語ハ如何ニシテ生レルカ / 第一章 問題ノ一粒 / 第二章 意義変化ノ論理的條件 / 第三章 心理的原因 / 第四章 言語学的條件 / 第二部 語ハ互ニ如何ニシテ存続スルカ / 第一章 感染 / 第二章 反動作用 / 第三章 生存競争 / 第四章 同意語 / 第三部 どうシテ語ガ死スカ / 第一章 歴史語 / 第二章 一般的名辞 / 第三章 破壊作用 / 第四章 古語
小林好	V	41		(翻訳ノート)音韻史	小林好日		冊子(ノート)	1冊 140頁	21×16.5	翻訳ノート。内容:Edkins Contributions to the History of the Japanese Transcription of Chinese sounds. /Edkins On the Japanese letters 'chi' 'tsu' / Satow Reply to Dr.Edkins on 'chi' 'tsu' / Satow On the transliteration of the Japanese syllabary.

小林好日文書目録

整理番号	表題	作成者(記録者)	年代	形態	数量	法量(縦×横:cm)	内容注記	
VI その他								
小林好	VI 1	昭和二十三年八月 東北大学教授小林好日博士遺蔵 好日文庫受入図書目録	福井師範学校図書課	1948年	冊子(ひも綴じ)	1冊 140頁	25.5×17.5	小林好日の蔵書の多くは福井師範に寄贈される。その際の受入目録。